

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年12月16日（月）

活動隊員：金谷雅代

1. 活動期間

2024年12月10日（火）～12日（木）

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（珠洲市大谷町1字78番地）

仮設住宅訪問：大谷町第1団地

集会所：宝立町第1団地集会所（珠洲市宝立町鶴飼丑83）

3. 珠洲市の被害状況

令和6年能登半島地震による被害状況（12月10日（火）14時現在 石川県庁情報 第177報）

人的被害 死者：146人 うち災害関連死：49人 負傷者：重症47人、軽症202人

住家被害 全壊：1,748棟、半壊：2,082棟、一部損壊：1,747棟 非住家被害：6,147棟

避難所 開設3箇所 避難者数24人（下線部は前報からの修正）

令和6年奥能登豪雨による被害等の状況（12月10日（火）14時現在 石川県庁情報 第34報）

人的被害 死者：3人 負傷者：軽症9人

住家被害 全壊：12棟 半壊：61棟 一部損壊：7棟

床上浸水：13棟 床下浸水：184棟 非住家被害：115棟（下線部は前報からの修正）

避難所開設状況 2箇所 避難者数17人

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校 12月10日：18人、12日：14人

【避難所運営と生活状況】

避難所には珠洲市職員が1人おり、避難所運営を補助していた。断水状態は解消し、体育館内のトイレ、洗面所の使用が可能になっていた（12月9日より）。戸外の仮設トイレは外部ボランティアの利用があるが、住民が自主的に掃除されており、汚れは目立たなかった。便器周囲をタオルでガードしている状態である。体育館入口の靴の数は減り、泥汚れなどはなく、体育館内の床は埃がやや多かった。体育館内に3台のストーブが置かれ、常時ついており、館内の冷え込みは感じなかった。

12月12日（木）の昼に外部支援者からの炊き出しがあり、避難者も在宅者も、仮設住宅入居者も多く集って食事していた。

5. 応急仮設住宅の状況

【大谷町第1団地（大谷小中学校グラウンド）】

・すでに入居している住人の話では、30軒程度入居済みとのことだった。駐車場はまだ舗装されていない。仮設住宅に入る階段やアプローチ部分の一部に、降雨によるものと思われる水たまりがあった。また、海側にも出入り口があるが、出入り口周辺が舗装されていないためか、靴に泥が付いたまま出入りすると、廊下に泥汚れが付着し、住民から公共スペースを清掃する道具を希望する声があった。

6. 支援活動の実際

<大谷小中学校避難所内での活動>

スタッフミーティングの後、トイレ掃除、床掃除等の環境整備を実施した。また、支援物資として届いた物の数は減っていたが、見えやすく、取り出しやすいように整理整頓した。断水が解消し、体育館内のトイレが利用できるようになったため、体育館内トイレに設置していた凝固剤とビニール袋は片付けた。

在室している避難者に声をかけ、健康状況の確認、血圧測定を実施した。

<大谷町第1団地応急仮設住宅訪問>

12月10日と12日に仮設住宅を訪問した。住人の話では30軒ほどが入居しているとのことだったが、訪問時は不在の家庭もあり、10日には14軒、12日は19軒の方と話げできた。

入居のための支援に来ている息子さんが、自分が帰った後一人になった家族が家電製品の使い方が習得できずに滅入っていると話していた。また、息子さんと同居しているが、日中一人で杖歩行生活を送る女性が、床に長座位で台所周りの片付けを行っている様子があった。さらに、杖歩行状態の方の居室が2階であったが、なんとか階段の昇降は可能であると話された。

周囲の状況が分からず、訪問した活動隊員に近所づきあいの不安を訴える人もいたが、12日の訪問時、廊下で出会った人が旧知の友人であることが分かり、嬉しそうに会話している様子も見ることができた。仮設住宅内に収納が不足しているため、自分で材料を調達して、あっという間に棚を作り上げ、設置している人もおり、それぞれに新生活が始まり、次々と支給される支援物資を広げていた。

ピースウインズジャパンから、仮設住宅に棚が必要な人には支援できるため、案内依頼があり、訪問時に確認した。10軒から希望があり、この日仮設住宅入居者への電化製品配布のために集会所に訪れていたピースウインズジャパンの担当者に住民の希望を伝えた。

移動スーパーの訪問日程を知りたいという声は何件か聞かれ、エリア会議の際に案内されたJAの移動販売車の訪問予定チラシを希望者に配布した。

訪問先では健康状態についての不安を訴える人はいなかった。

<エリア会議・情報共有会議・支援者会議参加>

1) エリア会議

開催日時：12月11日(水)9時～11時25分

開催場所：珠洲ささえ愛センター

開催内容：エリア別に各支援団体とエリア担当保健師、精神保健福祉士が参加して個別の課題、コミュニティの課題について情報共有しながら検討している。

大谷地区の避難所避難者の状況や仮設住宅入居者の状況、お茶会開催状況について報告した。

2) 情報共有会議

開催日時：12月11日(水)15時～16時

開催内容：健康増進センター、珠洲市総合病院、各支援団体が参加して、様々な課題について協議している。エリア会議の場であがった課題について、健康増進センター長から対応について回答を得た。また、健康増進センター長から現在の状況(避難所数、避難者人数と今後の動向)について説明がなされた。仮設住宅の生活支援についても、課題と対応内容が報告された。また、ケース検討会も実施された。

3) 支援者会議

開催日時：12月11日(水)16時～17時

開催内容：健康増進センター長をはじめ、各支援団体の長が参集し、支援に関する課題と対応策について検討していた。雪対策や、大谷地区の買い物支援についてなど意見交換がなされた。

<地域コミュニティ支援>

1) 大谷地区お茶会

日時：12月10日(火)13時～15時

場所：大谷小中学校ランチルーム

参加人数：10人

開催内容

脳トレと称して、歌詞の穴埋めをクイズとして出題しながら、冬の歌を4曲合唱した。また、冬期になるため、血圧に関するクイズを出題し、血圧上昇防止への理解を深めていただいた。カステラと黒蜜、イチゴ、ホイップクリームなどを用いて、個々にパフェを作成した。ピースポート担当者の紹介でスターバックスコーヒー社員5人の訪問があり、美味しいコーヒーのいれかたについてレクチャーを受けた。参加者は自分で入れたコーヒーと自分で作ったパフェを味わいながら談笑していた。

2) 宝立地区お茶会「集いの会」

日時：12月11日(水)13時～15時00分

場所：宝立町第1団地集会所

参加人数：14人

開催内容

大谷地区と同様に合唱とクイズを実施した後、カステラパフェを作成していただいた。できあがった後はお茶を飲みながら、パフェを食べ、談笑した。

北海道から支援に来ている鍼灸師が、針を使わずに施術できるということで、希望者が10分程度の背部の施術を受けた。終わった後は「軽くなった」「背筋が伸びた」と話された。

今回は体操を入れなかったため、参加者から「日頃運動をしないので、ここへ来て運動をしたいから、体操を入れてほしい」という要望を受けた。

7. 支援活動を通しての所感と課題

大谷地区では仮設住宅への入居が進んでおり、自衛隊の入浴支援の終了期日や避難所の閉鎖期日も決定したため、避難者の動きが今後慌ただしくなってくると考えられる。新生活への移行に向け、無理をせずに進めていけるよう声をかけていく必要がある。

大谷町第1団地は廊下があるため、隣人との立ち話も風雨にさらされずに可能である。入居者の元の居住地はそれぞれだが、旧知の友人に廊下で会って初めて同じ所に入居していることが分かり、近所付き合いの不安が解消されたという人もいた。まだ、それぞれの生活を整えることが優先課題だが、仮設住宅入居者の相互の顔が見え、交流が進み、支え合い助け合って新しいコミュニティが形成されていくことを期待したい。ただ、生活が落ちつくのに伴い、疲労やストレスが顕在化してくることも考えられるため、健康管理の継続も必要である。

8. 参考写真



美味しいコーヒーの入れ方を教わりました。

* 撮影と掲載の許可を得ています。



カステラでパフェを作りました。